



ぎふ労福協

岐阜県労働者福祉協議会 編集発行人／筒井和浩

vol.127

2026.8.1

岐阜市鶴舞町2-6-7
ワークプラザ岐阜内
TEL(058)248-6029
FAX(058)245-2410

【岐阜労福協機関紙】 連合岐阜・東海労働金庫・こくみん共済coop岐阜推進本部・岐阜県勤労福祉センター <http://gifu.rofuku.net>

第72回定期総会開催

～労働者福祉運動の連携を強化し、地域に共助の輪を広げよう！～



▲筒井会長



▲議長 堀田常任幹事

2026年5月29日(金)9:30より、ワークプラザ岐阜5階大ホールにおいて岐阜労福協第72回定期総会を開催し、代議員や役員ら53人が参加しました。

最初に司会の田中副会長より、定数34名に対し、出席が24名、委任状が8名、合計32名を確認し、規約第16条の総会要件の成立宣言があり、その後、堀田常任幹事が議長に選出されました。

冒頭に岐阜労福協 筒井和浩会長の挨拶を受け、岐阜県商工労働部労働雇用課 森島恵理子課長、岐阜市経済部 大東徹経済政策参与、連合岐阜 子安英俊副会長の3名の方々より祝辞をいただいた後、議事に入りました。

報告事項は、加藤事務局次長より2025年度活動報告を提案、多数の拍手で承認されました。第1号議案は、加藤事務局次長より2025年度決算報告、監査報告は、高橋監査より報告され、賛成23、反対0、保留0で承認されました。第2号議案は、大宮事務局長より、2026年度活動方針(案)および予算(案)について一括提案され、賛成23、反対0、保留0で承認されました。第3号議案は、大宮事務局長より2026年度役員増員(案)について提案され、賛成23、反対0、保留0で承認されました。最後に村上副会長の閉会挨拶にて、承認いただいた2026年度活動方針にもとづいて、今後の活動を展開していくために全役員・会員の皆様にご協力をお願いし、第72回定期総会を終了しました。



▲岐阜県 森島労働雇用課長



▲岐阜市 大東経済政策参与



▲連合岐阜 子安副会長

岐阜県勤労福祉センター

第57回定期総会を開催

5月29日(金)11時10分より、ワークプラザ岐阜5階大ホールにおいて岐阜県勤労福祉センター第57回定期総会が開催されました。議事では、第1号議案:役員一部交代・増員の件、第2号議案:理事及び監事の報酬額の件、第3号議案:貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認の件について提案し、決議の結果、すべての議案が全会一致で承認されました。



▲議長 子安理事



「特殊詐欺の現状と対策について」を テーマに記念講演会を開催

2026年5月29日(金) 13:00より、ワークプラザ岐阜5階大ホールにおいて岐阜県警察本部 生活安全部生活安全総務課の足立佐貴課長補佐を講師に「特殊詐欺の現状と対策について～県民総ぐるみ 安全安心のバトンリレー～」をテーマに、76名の参加者により記念講演会を開催しました。また、今回の記念講演会は、岐阜労福協が会員となっている消費者ネットワーク岐阜が、岐阜県から受託している「岐阜県若年層向け消費者教育推進事業」の「若年層への消費者教育講演会」として共同開催となりました。最初に筒井会長より挨拶があり、その後、講演を開始しました。

講演では、特殊詐欺とは、電話やメール、SNSなど非対面の手段で相手を不安にさせ、金銭をだまし取る犯罪の総称で、オレオレ詐欺や架空料金請求詐欺などが代表例であること、近年は手口が多様化し、ニセ警察官を名乗る詐欺やSNSを使った投資詐欺・ロマンス詐欺が増加していると話されました。岐阜県内の被害は年々増加しており、件数・被害額とも大幅に拡大し、特にSNS詐欺は一件あたりの被害額は大きく、全体では数十億円規模に達している。従来は高齢者が主な被害者とされていたが、現在は40～60代にも広がり、全世代が対象となっている。犯人との接触は、電話やメール、SNSが中心で、Instagramなどの利用も目立っている。金銭の受け渡しは銀行振込が主流で、近年はネットバンキングや暗号資産が使われるなど、見えにくくなっていると話されました。手口の一例として、警察を装い「あなたの口座が犯罪に使われている」と不安をあおり、SNSに誘導し金銭の移動を指示するケース、NTTなどを名乗り個人情報が悪用されていると偽り支払いを迫る架空料金請求、インターネット上の偽警告画面から金銭を要求するサポート詐欺、電子マネーを購入させ番号を送らせる手口も多い。SNS型では、投資話で利益が出ているように見せて信頼させてから大金をだまし取る、あるいは恋愛感情を利用し送金させるケースがあり、だまされていることに気が付くまでお金を取られ続けると話されました。被害に遭う要因は、「自分は大丈夫」という過信、不安や焦りによる判断力の低下、権威を装う相手への信頼などがあり、犯人は「今すぐ対応しないと重大な不利益がある」と急がせ、冷静さを失わせることが狙いであると話されました。対策として最も重要な

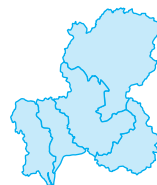


▲講師 足立課長補佐

なのは、犯人との最初の接触、連絡そのものを遮断することであり、固定電話では録音機能付き電話やナンバーディスプレイの利用や国際電話の遮断などが有効とされる、携帯電話でも、防犯アプリを活用し迷惑電話をブロックするなどの対策が推奨されている。また、「必ず儲かる」などの言葉や、面識のない相手からの金銭の話はすべて詐欺を疑うべきであると話されました。最後に、音声データを交えて被害者の体験も紹介され、家族を思う気持ちにつけ込まれて高額被害に遭った事例が紹介されました。手口の巧妙化が大きな課題となっており、こうした被害を防ぐためには、一人ひとりが正しい知識を持ち冷静に判断し、一人で判断せず家庭・警察・相談窓口へ早めに相談する、家族や地域で情報を共有しながら警戒を高めることが重要であり、県民全体で対策が求められていると解説され、参加者は特殊詐欺の現状を知り、被害防止のための必要な知識や心構えと日頃の啓発活動を学びました。

2026
年度

岐阜労福協 各支部定期総会開催



岐阜支部



岐阜支部の2026年度定期総会は、6月25日(木)にワークプラザ岐阜にて開催しました。23名の参加、23組合の委任状により総会成立宣言を行い、冒頭、鳥山支部長の挨拶、筒井会長から激励の挨拶を頂戴しました。

議事では、2025年度活動報告および決算報告を行い、満場一致で承認され、2026年度活動方針および予算案、支部役員承認の件について提起し、満場一致で承認されました。2026年度は、昨年度以上に活動の活性化を図るとともに、会員組合との連携をより強固なものにしていきます。

西濃支部



西濃支部の2026年度定期総会は、6月17日(水)にサンワーク大垣にて開催しました。

冒頭、岡田支部長の挨拶で始まり、県労福協の筒井会長より激励の挨拶をいただきました。2025年度活動報告・決算報告のあと、2026年度活動方針・予算・役員変更等が提起され、満場一致で承認されました。

中濃支部



中濃支部の2026年度定期総会は、6月19日(金)に美濃加茂市生涯学習センター(404号室)にて開催しました。冒頭、亀山支部長の挨拶で始まり、県労福協の筒井会長より激励の挨拶を頂戴しました。

議事では2025年度総括と2026年度活動方針・新役員の承認等の諸議案を審議し、満場一致で承認されました。連帯・共同でつくる安心・共生の福祉社会の実現に向け、文化・体育活動や生涯福祉の充実、会員・事業団体との連携を深める活動を行っていくことを確認しました。

東濃支部



東濃支部の2026年度定期総会は、6月24日(水)に瑞浪市総合文化センターにて開催しました。冒頭、加藤支部長が挨拶したのち、県労福協の筒井会長より激励の挨拶を頂戴しました。

議事では2025年度の総括、2026年度の活動方針・予算の審議、役員の報告をおこない、満場一致で承認されました。2026年度も引き続き、労働者福祉事業団体他とも連携し、会員の文化体育他の活動を充実させていくことを確認しました。

飛騨支部



飛騨支部の2026年度定期総会は、6月11日(木)に高山市民文化会館にて開催しました。冒頭、小井戸支部長の挨拶があり、その後、来賓の筒井会長よりご挨拶を受けました。

総会は、2025年度の各種報告、2026年度の活動方針や予算、旅費規程の一部改正が提案され満場一致で承認されました。2026年度においても相談業務を中心に従来から取り組んでいる諸活動を福祉事業団と連携し推進していくことが確認されました。

第97回岐阜県中央メーデー 開催

主催：岐阜県中央メーデー実行委員会



▲筒井実行委員長 挨拶



▲会場の様子

2026年4月25日(土)10時より、岐阜市金公園にて、第97回岐阜県中央メーデーが開催されました。

当日は連合岐阜の構成組織の組合員をはじめ、労働福祉団体などの関係団体から1,011人が参加しました。

式典では、冒頭に主催者を代表して、連合岐阜会長で岐阜労福協会長の筒井和浩実行委員長のあいさつで始まり、その後、来賓の江崎禎英岐阜県知事、柴橋正直岐阜市長からそれぞれごあいさつをいただきました。

続いて、来賓の紹介と祝電・メッセージを披露し、最後に、スローガン「対話と連帯で築く、平和で笑顔あふれる未来 真の働き方改革で、安心してらせる社会を!」の確認、「核兵器の廃絶と恒久平和の実現や働く者のための真の働き方改革の実現などを目指す」メーデー宣言の採択、がんばろう三唱を高らかに参加者全員で唱和し、閉会しました。

その後、参加者は金公園から金神社東側の広場までシュプレヒコールを唱えながらアピール行進を行い、賃上げや労働条件の改善、子育て支援、平和な世界等を訴えました。

第97回岐阜県中央メーデー 「ファミリーフェスティバル」開催



▲「能登米応援セット」のブース出店



▲「交通安全」クイズの様子

岐阜労福協は4月25日(土)11時より、岐阜市金公園で開催された第97回岐阜県中央メーデー「ファミリーフェスティバル」にブース出店し、今年も「令和6年能登半島地震」に対する復興支援として、「能登米応援セット」を販売しました。

お米は、「#とりもどそう能登!お米農家応援プロジェクト」として、農家さんへ売上金の一部を還元し復興支援を応援する石川県羽咋郡の中橋商事株式会社から、能登米応援セット(能登米こしひかり2kg・能登米のとひかり2kg各180個 計360kg)を購入し、ご来場の皆さまや役員の方々に計175個をお買い上げいただきました。お買い上げいただきました皆さま、ご協力誠にありがとうございました。

なお、売上金232,500円は、全額カンパ会計に繰り入れ被災地義援金として拠出し、被災された方々を支えるため、その全額を被災地支援や復興支援とします。

また、会場の盛り上げに大道芸人の「とっぽさん」と「がーこさん」が登場し、1回目は、ジャグリングやパントマイム、バルーンアートにサーカス芸などのコミカルな楽しいショーを披露、2回目は、「交通安全」をテーマにしたショーが行われ、来場者にパフォーマンスの楽しさとクイズを交えて「交通安全」の大切さをみんなで学びました。

東海労働金庫

第26回通常総会



6月26日(金)に名古屋市の「ウインクあいち大ホール」において、東海労働金庫第26回通常総会が愛知・岐阜・三重の307会員より代議員が出席し開催されました。各議案審議および理事選任は全会一致で承認されました。

岐阜県労働者共済生活協同組合

第68回通常総代会

こくみん共済coop岐阜推進本部

第9回組合員代表者会議



7月31日(金)ワークプラザ岐阜において、岐阜県労働者共済生活協同組合第68回通常総代会およびこくみん共済coop岐阜推進本部第9回組合員代表者会議が開催されました。

開催にあたっては、昨年引き続き、「書面議決権」による議決権行使を取り入れ、総代数150名中、出席総代62名、書面議決88名、合計150名の出席で開催され、全ての議案について、満場一致で承認されました。また、4名の理事・監事(代表委員)が選任されました。

会員産別への取り組み要請

岐阜労福協では、中央労福協の「全国福祉強化キャンペーン」と連動し、岐阜県労働者福祉協議会および岐阜県内における労働者福祉事業団体(東海労働金庫、こくみん共済coop岐阜推進本部、岐阜県勤労福祉センター)の事業推進や利用拡大に向けた取り組みを展開いたします。

1.労働者福祉運動強化に向けた取り組みについて

(1)全国統一要請

- ①労働者自主福祉団体の運動と事業の前進に向け、中央労福協、労働金庫、こくみん共済coopとのさらなる連携、および利用促進・共助拡大の強化をお願いします。また、貴組織の定期大会の議案書へ、自主福祉活動の一環として「労働者自主福祉運動の強化」に関する運動方針掲載、補強および広告掲載し、加盟組織へ周知をお願いします。すでに掲載いただいている組織につきましては、引き続きのご協力をお願いします。あわせて、定期大会の議案書を各労働者福祉事業団体の担当職員に渡していただきますようお願いいたします。
- ②貴組織ならびに加盟組織における教育研修のプログラムに労働者福祉運動のテーマを盛り込むなど、担い手育成の研修会等の企画・実施の強化をお願いします。

(2)岐阜労福協独自要請

- ①貴組織や加盟組織で開催する、セミナー・研修会等の前段や休憩時間などを利用し、若年層組合員を中心に、労働者福祉事業団体の研修教材を活用し、認知度向上の取り組みをお願いします。
- ②岐阜労福協が主催する、セミナー「10月15日(木)理念・歴史・政策セミナー」・「10月26日(月)勤労者チャリティー文化講演会」・「2027年5月28日(金)記念講演会」、イベント「岐阜県勤労者球技大会 11月8日(日)ボウリング県大会、11月15日(日)ソフトボール県大会」・「11月11日(水)チャリティゴルフコンペ」への参加をお願いします。
- ③労福協支部が主催する、各種セミナーや各種イベントへの

の参加をお願いします。

- ④上記の取り組みについて、貴組織から加盟組織にご周知くださいますようお願いいたします。

2.各労働者福祉事業団体の利用拡大・促進の取り組みについて

(1)東海労働金庫

- ①コア接点(組合員・職域)への浸透、新しい接点(ファミリー・地域)への広がり
- ②生活設計(グッドマネー運動による意思あるお金を結集する取組、生涯取引を推進する取組、バランスの取れた資産形成を推進する取組)
- ③生活防衛(不測の事態に備える取組)
- ④生活改善(家計の見直し運動の取組、マネートラブルから救済する取組)
- ⑤知らせる活動(新しい接点への生活応援運動拡大、ろうきん活動グランプリの実施)

(2)こくみん共済coop岐阜推進本部

- ①労組役員啓発活動
- ②デジタルツールを活用した取り組み
- ③ライフサイクル推進
- ④退職者対策に向けた取り組み
- ⑤重点共済の取り組み(マイカー共済・自賠責共済・団体生命共済・住まいる共済・こくみん共済/長期生命共済・新団体年金共済)

(3)岐阜県勤労福祉センター

- ①ワークプラザ岐阜会議室の利用拡大
- ②ライフサポートセンターぎふの取り組み周知

石川労福協へ義援金を贈呈



2026年4月7日、岐阜労福協は石川労福協に対して、50万円を義援金としておくりました。

この義援金は、被災地支援米の売上金、文化講演会やゴルフコンペ等におけるチャリティー募金として、会員の皆様をはじめ多くの方々から寄せられたものです。

当日は、石川労福協の小水康史会長および徳本喜彰専務理事にご対応いただきました。小水会長からは、「被災地では現在も1万8千人以上が仮設住宅での生活を余儀なくされており、高齢者の居住も多く見られる。人手が足りないことや、材料や機械の値段が上がっている影響で、復興は思うように進んでいない状況です。また、一般住宅の再建も十分には進んでおらず、生活再建に必要な資材費の高騰が大きな負担となっている。加えて、労働環境の変化により労働災害の増加も懸念されるなど、課題は複雑化している。なお、申請のあった建物の公費解体については一部を除き完了している。こうした厳しい状況の中にあっても、被災地では懸命に生活再建に取り組んでいる方々が多くおられる。そうした方々に寄り添いながら、復旧・復興に向けて引き続き支援が必要である。本日いただいた義援金は、避難や生活再建に苦しむ住民のために有効に活用させていただく」とのお礼の言葉が述べられました。

また、岐阜労福協の筒井会長からは、「岐阜労福協として、今後も復興支援の取り組みを継続していく。一日も早く住民の皆様が安心して暮らせる環境が整うことを願っている。石川労福協におかれては、引き続き復興支援に取り組んでいただきたい。岐阜労福協としても、可能な限りの協力を行っていく」と述べ、今後の取り組みに期待を寄せました。



震災応援米を (一社)ぎふこども食堂ネットへ寄贈



2026年5月14日(木) 岐阜労福協は、地方における社会貢献活動の一環として、子ども食堂の運営支援を行う、一般社団法人ぎふこども食堂ネットに、第97回岐阜県中央メーデーで「とりもどそう能登!お米農家応援!」をテーマに販売した「能登米応援セット」の残在庫5個(10kg)を寄贈しました。

寄贈式では、大宮事務局長から今回の寄贈趣旨が述べられ、今井事務局長から「このような寄付は大変ありがたく、子ども食堂や福祉施設に配布して、今回いただいたお米を必要とする人たちに支援として届けます」とお礼の言葉をいただきました。



中央労福協主催「全国研究集会2026 in MIYAGI」に参加

Re:BUILD(リビルド) — 災害に対する社会のこれからを考える —



▲オープニングセッション

2026年6月2日(火)14時より、宮城県仙台市の東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)大ホールにおいて、中央労福協主催の「全国研究集会2026 in MIYAGI」がHybrid開催されました。全国各地から449名が来場し、岐阜労福協からは筒井会長、大宮事務局長、加藤事務局次長、高田常任幹事、内藤常任幹事の5名が会場参加しました。当日は一般にも公開し、YouTubeLiveで生配信され、6月16日現在の再生回数は439回となっています。

冒頭のオープニングセッションでは、総司会にフリーアナウンサー後藤美可氏、ゲストに仙台市郡和子市長、宮城県労働者福祉協議会大黒雅弘会長が登壇し、仙台市長より、震災からの復興の歩みと再生、減災の考え方、自助・共助・公助の重要性、震災遺構を活用した教訓の継承について説明がありました。また、宮城労福協会長からは、震災当時の避難所の厳しい状況や被災者が支え合いながら命をつないだ体験が語られ、「震災を知ること、学ぶこと、伝えること」の重要性が強調されました。東日本大震災から15年を迎えた被災地の「復興」と「伝承」、私たちは災害から何を学び、いま何をすべきなのか、そして今後の災害への備えについて、問題提起がありました。

トークセッションでは、宮城・岩手・福島各県で復興支援や伝承活動に取り組む団体の現場で活動する実践者から、それぞれの報告がありました。被災妊産婦の支援や地域の母親と助産婦がつながる活動、子ども食堂や子どもから高齢者まで地域の人が集う居場所づくり、日本語と英語で震災遺構を活用した伝承活動、

被災地支援コーディネーターとして被災地や被災者のニーズを把握し、課題解決の為に個別支援や団体等の連携や協働による活動促進等、地域ごとの課題や取り組みが紹介されました。また、小さなコミュニティでも濃く深く、それが役立つ、かけ算が大事である。心の復興として、誰とでもどこでも通える居場所が必要。長続きの秘訣は、ほどほどでOK、「やらなくちゃ」ではなく、できる人がやる。今日のような出会う場も大事で、たくさんの課題がある中、普段交われない人と交わり、連携して何ができるか、新しいつながりが災害時の備えになる等の意見交換がありました。発表や意見交換を通じて、災害時に必要となるのは物資や制度だけではなく、日頃から築かれている人と人とのつながりであり、人がベースになっていることが改めて確認されました。また、防災・減災の取り組みを特別なものと捉えるのではなく、日常の地域活動や教育、交流の中に取り入れ、継続していくことの大切さについても共有されました。さらに、「復興」や「伝承」は被災地だけの課題ではなく、全国の地域や組織が自分事として捉え、支え合いながら取り組むべきものであることが確認されました。

今回の研究集会を通じて、災害に対する社会のこれからを考え、「復興」と「伝承」は一時的な取り組みではなく、次世代へ継続して引き継いでいくべき重要な活動であることを改めて認識しました。また、災害に強い地域づくりのためには、平時からのつながりや支え合いの仕組みづくりが不可欠であり、地域で活動するさまざまな団体と連携し、今後の労働者福祉運動を進めるうえでも大切な視点であることを学ぶ機会となりました。



▲トークセッション

トークセッション

ファシリテーター	特定非営利活動法人 せんだいみやぎNPOセンター	常務理事・事務局長	青木 ユカリ 氏
ゲスト	石巻市震災遺構門脇小学校	館長	リチャード・ハルバーシュタット 氏
	一般社団法人 おりがみ	代表理事	半沢 裕子 氏
	一般社団法人 ふくしま連携復興センター	理事・事務局次長	鈴木 里加子 氏
	特定非営利活動法人 まんまるママいわて	代表理事	佐藤 美代子 氏
コメンテーター	大阪公立大学大学院 文学研究科人間行動学専攻	准教授	菅野 拓 氏
	労働者福祉中央協議会	事務局長	佐保 昌一 氏
グラフィックレコーダー			岩下 紗矢香 氏



第17回総会・記念講演会 開催報告



2026年5月16日(土)、消費者ネットワーク岐阜第17回総会・記念講演会を、生活協同組合コープ岐阜会議室で開催し、会場とオンライン合わせて33名が参加しました。第2部の記念講演会の模様は、岐阜大学、岐阜女子大学の学生にオンデマンド配信し、約500人が視聴する予定です。

総会は、花井副代表の司会で始まり、大藪代表の開会挨拶に続き、4名のご来賓からご挨拶をいただきました。ご挨拶の中では、日頃からの消費者ネットワーク岐阜の取り組みへの感謝の言葉と、昨今の消費者問題をめぐる情勢、岐阜県、岐阜市、県弁護士会、県司法書士会での取り組みや今後の計画、そして今後に向け消費者ネットワーク岐阜との連携強化となお一層の期待を込めたお言葉をいただきました。

続いて、世話人の佐藤逸子さんが議長に選任され議事に入りました。佐藤事務局長から4件の議案が提案され、会計監査の奥田さんが監査報告を行いました。続く審議では発言は無く、その後の採決で全員の方の賛同があり全議案が承認されました。

第1議案 2025年度事業報告及び収支決算承認の件

第2議案 2026度事業計画及び収支予算決定の件

第3議案 消費者ネットワーク岐阜規約改訂の件

第4議案 2026年度代表・副代表・会計監査の選任、世話人の報告の件

議長解任の後、御子柴副代表から閉会挨拶がありました。本日の総会では、4つの目標と12の計画をご承認いただきました。ご来賓の皆様からも、現在の社会が抱えるさまざまな課題についてお話をいただきましたが、消費者ネットワーク岐阜としても、今回承認された目標と計画の一つひとつを着実に進め、皆様が安全・安心に暮らせる社会づくりに少しでも貢献していきたいとの決意が述べられました。また、今年度一年間、会員、行政、関連団体の皆様とのさらなる連携を図りながら、活動に全力で取り組んでいく決意と、引き続きの協力をお願いしたい旨の挨拶がありました。

記念講演会は、法政大学キャリアデザイン学部 教授の坂本旬氏を講師に迎え、「AI社会を生き抜くためのAIリテラシー ～広がるリスクから身を守り、AIとともに生きる力を育てる～」をテーマに講演が行われました。

お知らせ

勤労者チャリティー文化講演会を以下の通り開催します

日 時／2026年10月26日(月)

開場 18:00 開演 18:30 終演 20:00(予定)

場 所／じゅうろくプラザ 2階ホール

講 師／池田 清彦 氏

(生物学者・早稲田大学名誉教授)

講演テーマ／「がんばらない生き方」

～人生を楽しく生きるために～

—— その他詳細は、決まり次第お知らせします ——



池田 清彦 氏